

乾乳牛に必要なものは？

～スペース・安楽性と牛の健康～

上春別のD農場の乾乳牛舎は、フリーバーンの休息スペース中で敷料（おが屑）と糞尿を攪拌し発酵させる「コンポストバーン」です。



この牛舎をデザインする際に重要視したのは・・・

・1頭当たりのスペース

休息スペースで1頭当たり11㎡

採食スペースは前期で80cm/頭、後期で1.5m/頭
分娩が集中して起きた時のために通常時の収容頭数の140%増しの頭数が収容できる広さ

・安楽性

乾乳前期・後期ともにコンポストバーンで牛の行動の制約を無くし、未経産牛のスペースは経産牛と別々にすることで牛の強弱の問題を無くした

- ・ 獣医師が呼ばれるような難産は無くなりました
- ・ 初産牛の死産が半減しました
- ・ 後産停滞や四変などの周産期疾病も減少しました
- ・ 乾乳期の乳房炎の新規感染に変化はありません
- ・ 分娩後に淘汰される牛も減少しました

☆安楽性：過肥になり易い上、子宮と胎児が大きくなり搾乳時よりも体重が増える。より長い休息時間が必要になる。寝起きがしにくいと行動の制約を受けやすい。

☆スペース：乾乳グループは牛の出入りの激しいことが特徴。常に新しい牛が入ってきては闘争行動が激しくおこり落ち着く間がない。闘争行動はペンの密度が高ければより激しくなり、乾乳牛の採食行動と休息行動を著しく阻害する。

以上のように、乾乳牛はより高度な安楽性と搾乳牛よりも広い1頭当たりのスペース（休息と採食スペース両方）を必要としています。

この二つが十分に満たされていない状況では乾乳牛はあっという間に疲弊し、採食量低下と体脂肪動員によって、その後の周産期疾病や死産事故へと容易に連鎖するでしょう。

☆周産期疾病の発生の比較

	稼働前	稼働後
難産	4%	0%
死産 初産	13%	8%
経産	5%	5%
後産停滞	9%	3%
四変	8%	3%
初回 SCC30 万<	8%	7%
分娩後 60 日以内淘汰	8%	3%

